

## 評価アドバイザーメッセージ

### 「評価(Evaluation)」は 事業の「価値(Value)」を 「表現する(Express)」ための仕組み

久留米大学基盤教育研究センター  
教授

中村 寛樹 NAKAMURA Hiroki

「休眠預金等活用制度」およびその根拠となる法律では、「休眠預金等交付金に係る資金の活用の成果に係る評価の実施」つまり、「社会的インパクト評価」の実施が規定されています。「社会的インパクト評価」は少し聞きなれない言葉かもしれませんが。その前に、そもそも「評価」とは何でしょうか。公表されているJANPIAの説明(「資金分配団体・実行団体に向けての評価指針」2020年7月改定版)を引用します。

「評価の原義は『価値を引き出す』ことです。英語では評価は“evaluation”と言い、これには“value”「価値」と、接頭辞の“e-”(ex-)「外に出す」が含まれています。」評価とは、「正確な事実を特定し、それをもとに事業の優れた点や有用性、価値を判断していくプロセス」、「本制度が特に大切にしているのは、評価を通じてしっかり事業を改善していくこと、それにより、事業の価値をさらに高めていくことです。」

そして、「社会的インパクト評価」とは、「短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的な『変化』や『便益』等の『アウトカム(短期・中期・長期)』を定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加える(評価を行う)こと。『インプット』、『活動』、『アウトプット』から『アウトカム(短期・中期・長期)』に至るまでの論理的な結びつきを明らかにした上で、計画、実行、分析、報告・活用の4つの評価過程を経て実施される」。…少し難しそうです。「社会的= Socialとはいえ、それがソーシャル・ビジネスとどう関係するのだろうか？」という声も聞こえてきそうです。

ソーシャル・ビジネスで社会課題が解決される(た)かどうか、それが一番重要なのに、その評価はなぜ難しそうに見えるのでしょうか。それは、そもそも社会課題は、様々な事象が複雑に絡み合い、容易に把握できるものではないからです。直接的に表れるものもあれば間接的に社会に表出してくることもあります。また、それをビジネス手法で解決するソーシャル・ビジネスの価値を統一的に測ることは容易ではありません。ではどうすればいいのでしょうか。

社会課題解決事業の評価の本質は、それら複雑に絡み合ったものを一つひとつ丁寧に解きほぐし、解きほぐした中から、その解決に向けた新たな事業を創造・改善、多くの人にその価値・成果を知ってもらう「表現をする(express)」ことと言えます。

本書で取り上げた事例(ケース)は、多岐にわたる社会課題のうちの一部の取り組みかもしれませんが。しかし、その取り組みの背後には、そこまでに至る様々な失敗、苦労、成功、喜びといった物語があります。そして、事業を実施するだけでなく、事業を評価し、その価値をそれぞれに「表現」しています。「表現」は、英語で“expression”と言い、人の表情や(数学の)式も意味します。表現の仕方は多様ですが、それぞれ明快(express)です。そして、なにより、どれも現在進行形、速達(express)です。

本書は「評価」に特化したものではありませんが、「評価(evaluation)」は事業の「価値(value)」を「表現する(express)」ための仕組みであり、そのエッセンスが本書には凝縮されています。読者の皆様には、ケースを通じて、エスプレッソ(espresso)を飲むように、少量だけど目の覚めるような疑似体験をして頂ければと思います。最後に、貴重な取り組みを日々実施されている関係各位にこの場を借りて心より敬意を表します。